

平成29年度（2017年度）
事業計画

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

平成29年2月作成

所 信

平成28(2016)年度におけるスポーツ界最大のイベントは、第31回オリンピック・リオデジャネイロ大会でした。“センターポールに日の丸を！”をスローガンに掲げ、関係者一丸となり目標達成に邁進した結果、競泳「とびうおジャパン」は、萩野選手・金藤選手の金メダル2個、萩野選手・坂井選手の銀メダル2個、瀬戸選手・星選手・男子800m リレーの銅メダル3個の計7つのメダルを獲得することができました。特に、大会初日の男子400m 個人メドレーでの萩野、瀬戸両選手が60年ぶりとなるダブル表彰台は、その後の日本選手団全体の躍進にも繋がりました。続く、シンクロ「マーメイドジャパン」は、デュエット、チーム両種目ともに銅メダルを獲得。シンクロニッポンの復活を強く印象づけました。さらに、飛込では板橋選手が女子選手としては20年ぶりとなる入賞。オープンウォーターでも、平井選手が初の入賞者となりました。32年ぶりに出場した水球男子は、残念ながら全敗ではありましたが世界最高峰の舞台で戦った経験は、大きな収穫となりました。これらの成果は、代表選手61名が一丸となって世界にチャレンジした結果だけでなく、物心両面からご支援いただいたスポンサーをはじめ、日本水泳界関係者のご協力の賜物と衷心より感謝申し上げます。

さて、リオデジャネイロ・オリンピックも終わり、いよいよ2020年に向けて各事業が本格的に始動しました。まず、競技力向上事業につきましては、世界選手権大会(7月・ハンガリー)、ユニバーシアード大会(8月・台湾)と重要な大会が続きます。これまで同様、“センターポールに日の丸を！”のスローガンのもと、競泳、飛込、水球、シンクロ、オープンウォーター全競技の選手強化、国際競技力の向上を目指します。同時に次世代選手たちの育成・強化にも重点を置きながら、国内強化合宿の充実、より高いレベルで戦える選手の育成、選手層の拡充に取り組んでまいります。

次に、競技運営事業につきましては、アスリートファーストのもと、競技役員・国際審判員の養成、国内競技会のさらなる充実、2018年パンパシフィック大会や2021年世界選手権福岡大会など国際大会の開催準備など、主管団体と連携して、水泳競技の認知度向上につながる競技会運営に取り組んでまいります。

指導者養成事業では、スポーツ指導の現場の変化に対応した指導者の資質・能力向上とともに量的拡大に取り組んでまいります。普及事業としては、『水泳の日』の全国展開の第一歩として、初めて地方開催(石川県)をいたします。中央開催で蓄積した企画運営のノウハウを集約し、今後も、日本各地、地域ブロック単位で開催できるように推進してまいります。水泳の楽しさを子どもたちに伝え、水泳人口の裾野の拡大につながるような企画とし、また、アスリート委員会と連携して、OB・OGアスリートが活躍する社会貢献の場としても活用してまいります。

総務事業では、ガバナンスの順守を第一に、関係機関・団体等との連携強化・協働を図るとともに、自主財源の確立、マーケティング活動の推進を徹底します。広報では、ホームページのタイムリーな情報配信、ユーザー目線のコンテンツの拡充、月刊水泳の定期発行と充実を推進してまいります。情報システムでは、次期競技者登録管理システムの開発に向けて計画立案に着手し、機能改善に取り組めます。

最後となりますが、本連盟を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であることを認識しなければなりません。日本の水泳界が着実な前進を続けるためには、柔軟性に富んだ思考力と行動力が求められます。各加盟団体をはじめ関係各位のなお一層のご協力ご支援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

平成29(2017)年2月26日

会長 青木 剛

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度
競 泳	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	世界選手権大会 (25m)		○		○
ワールドカップ大会	○	○	○	○	
泳	ユースオリンピック大会		○		
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○
	アジアエージ選手権大会	○			
飛 込	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	FINAワールドカップ			○	
	アジア選手権大会				○
	FINAワールドシリーズ	○			
ユースオリンピック		○			
込	グランプリ大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会	○			
	世界ジュニア選手権大会				○
水 球	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	アジア選手権大会		○		○
	FINAワールドリーグ	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会 (U17)	○		○	
アジアジュニア選手権大会 (U19)		○		○	
世界ユース選手権大会 (U18)		○		○	
世界ジュニア選手権大会 (U20)	○		○		
シ ン ク ロ	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	オリンピック大会予選会				○
	ワールドカップ大会		○		
	ワールドシリーズ	○	○	○	○
世界ジュニア選手権大会		○		○	
アジアエージ選手権大会	○		○		
O W S	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	ユニバーシアード大会	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会		◎		
	ワールドカップ大会	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○	

事業の方針

I 競技大会開催事業

リオデジャネイロ・オリンピック翌年の2017年度は、東京オリンピックへ向けたスタートの年となる。競泳・飛込・水球・シンクロ・オープンウォーターの日本選手権を中心に全国で開催される主要大会については、オリンピックを意識した質の高い企画・運営を目指す。全国大会の実施にあたり大会企画と競技運営の役割分担を明確にし、各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密にして、企画、立案、運営、予算管理を行い、準備から大会終了までを統括する。日本選手権等への各加盟団体からの役員派遣や主要大会への本連盟からの役員派遣を通して、全国で統一した高いレベルの大会運営を目指す。

1. 国内競技会開催事業

(1) 【競泳競技】

①	日本選手権水泳競技大会 (50m)	4月13日～16日	日本ガイシアリーナ	愛知
②	ジャパンオープン2017 (50m)	5月19日～21日	辰巳国際	東京
③	日本大学・中央大学対抗戦	7月1日	辰巳国際	東京
④	早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	7月2日	辰巳国際	東京
⑤	日本実業団水泳競技大会	8月5日・6日	静岡県富士水泳場	静岡
⑥	全国国公立大学選手権大会	8月11日・12日	敦賀市総合運動公園	福井
⑦	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	セントラルスポーツ宮城 G21	宮城
⑧	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	鴨池公園プール	鹿児島
⑨	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	辰巳国際	東京
⑩	日本学生選手権水泳競技大会	9月1日～3日	東和薬品フクダドーム	大阪
⑪	国民体育大会	9月15日～17日	松山中央公園	愛媛
⑫	日本選手権水泳競技大会 (25m)	11月14日～15日	辰巳国際	東京
⑬	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

(2) 【飛込競技】

①	日本室内選手権大会	6月9日～11日	辰巳国際	東京
②	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	セントラルスポーツ宮城 G21	宮城
③	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	鴨池公園プール	鹿児島
④	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～25日	大阪プール	大阪
⑤	日本学生選手権水泳競技大会	9月2日・3日	ダイエーパレス	新潟
⑥	国民体育大会	9月15日～17日	春野総合運動公園	高知
⑦	日本選手権水泳競技大会	9月22日～24日	辰巳国際	東京
⑧	国際大会派遣選考会	2月10日・11日	辰巳国際	東京
⑨	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 春季大会	3月25日・26日	辰巳国際	東京

(3) 【水球競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	ヒルズ県南総合プール	宮城
②	全国 JOC ジュニアオリンピックカップ 夏季大会	8月22日～26日	東和薬品フクダドーム	大阪
③	日本学生選手権水泳競技大会	9月1日～3日	横浜国際	神奈川

④	国民体育大会	9月11日～13日	松山中央公園	愛媛
⑤	日本選手権水泳競技大会	10月6日～8日	辰巳国際	東京
⑥	全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷・児島	岡山
⑦	全日本ジュニア(U17)選手権大会	3月18日～21日	柏崎	新潟
⑧	全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉

(4) 【シンクロ競技】

①	日本選手権水泳競技大会	4月28日～30日	辰巳国際	東京
②	日本シンクロチャレンジカップ2017	8月3日～6日	辰巳国際	東京
③	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月22日～25日	平岸プール	北海道
④	国民体育大会	9月10日	松山中央公園	愛媛
⑤	日本学生選手権水泳競技大会 (マメイトカップ)	9月18日	横浜国際	神奈川
⑥	13～15歳ユ・ジュニア大会	1月20日	辰巳国際	東京
⑦	シンクロショナルトライアル2018	1月21日	辰巳国際	東京

(5) 【オープンウォータースイミング】

①	国民体育大会	9月12日	北条長浜海水浴場	愛媛
②	日本選手権水泳競技大会	9月24日	台場	東京

2. 国際競技会開催事業

東京オリンピックに向けて国際競技会を誘致・開催する方針の下、今年度よりシンクロ日本選手権をFINAワールドシリーズに位置づけて実施する。また、引き続き競泳ワールドカップ大会を成功に導き、国際大会への役員派遣も充実させ、FINAとの連携をさらに強固なものとする。

(1) 【競泳競技】

FINAワールドカップ東京大会	11月14日～15日	東京辰巳国際水泳場
-----------------	------------	-----------

(2) 【シンクロ競技】

シンクロワールドシリーズ	4月28日～30日	東京辰巳国際水泳場
--------------	-----------	-----------

3. 各競技委員会事業

(1) マーケティング事業

リオデジャネイロ・オリンピックが終了し、本格的に東京オリンピックに向けた準備を開始した。東京オリンピック開催を踏まえて、協賛各社全体の見直しを行ない、新たな協賛社の獲得に努め、今年度、日本で開催されるFINAスイミングワールドカップ東京大会及びFINAシンクロ・ワールドシリーズ大会の成功に導く。また、2018年に開催されるパンパシフィック大会の準備をはじめ、引き続き、「水泳の日」の全国展開に向けた積極的な事業展開に努める。

(2) 競技事業

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や学生委員会、全国高等学校体育連盟・日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と連絡調整を密に行ない、準備から大

会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。特に今年度は、競泳の日本選手権が地方開催となる。主管団体である（一社）愛知水泳連盟との綿密な連携のもと円滑な実施を図る。また、日本実業団水泳競技大会は今年度で終了する。これまでの競技会を総括し、2018年度から新たに始まる社会人選手権大会に繋げる。

（3）学生競技会事業

大阪で開催される日本学生選手権水泳競技大会、プレ国体の位置づけとして開催される福井での全国国公立大学選手権水泳競技大会をはじめとする全ての学生大会の成功に向けて、6支部が全力で取り組む。また、全国代表者会議を開催（年4回）し、各支部間相互の連絡融和を図り、厳正な学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。東京オリンピックに向け学生補助役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会、事業に対する学生の派遣を行う。

II 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、社会的な基盤を整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

1. 競技者登録事業

新たに施行される「競技団体及び競技者登録規程」の着実な適用に取り組み、登録に伴う「肖像権」、「ロゴマークの規程」など、多様化する現状に合わせた対応を図る。新規規程の周知と適正な登録が実施されるように各加盟団体や情報システム委員会との連携を一層推進する。また、競技者登録システム（Web-SWMSYS）の安定稼働と機能改善を行うとともに、登録料の年度内回収についても徹底する。

2. 競技規則制定事業

本年度、世界選手権開催時に行われる予定の国際水泳連盟（FINA）競技規則の改訂を受けて競泳競技規則並びに競技役員の手引きの改訂に取り組む。最新版の全競技規則の改訂情報をWEBを通じて適宜情報発信を行い、全国統一した理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進する。

3. 競技役員養成・登録事業

本年度も「全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指し、本連盟の主催大会における各加盟団体競技委員長等の実技研修を引き続き行なう。また、例年通りブロック研修会並びに加盟団体主催の研修会に本連盟より講師を派遣し、競技役員資格取得者の拡充を図り、本連盟の方針や競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。また、公認競技役員と公認審判員の更新業務を円滑に行うとともに、管理・活用についての研究を継続する。

4. 競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、これを管理する事業を行う。各地で開催される公認公式競技会の3日以内の記録結果報告については、各地の情報システム担当者の協力により、記録結果の管理事業も順調に推移している。今後は、記録管理系システム環境の整備による、記録ランキングシステムと連携したモバイル機器(携帯・スマホ)の対応拡大とシステム保全作業の効率化を図る。

5. 施設用具公認推薦事業

競技場となるプールの新規公認及び更新登録を行う。また、競技にかかる施設用具や水泳競技に関連する企業との連携を図り、公認推薦規程に則り、公認推薦事業を行う。なお、昨年度から主要大会で導入されている背泳ぎの補助装置「バックストローク・レッジ」については、円滑な使用をさらに推進する。

6. アンチ・ドーピング事業

(1)主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なドーピング防止活動の一環として、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携し、主催大会においてドーピング検査(競技会検査)を実施する。また、選手の権利を守る立場であるNF代表役員を主要競技大会のドーピング検査会場に配置する。

(2)その他の事業

- ①HP掲載資料作成、TUE書類審査
- ②強化合宿・研修会などへの講師派遣
- ③競技会相談担当スポーツファーマシスト派遣
- ④JADA会議へのNF rep.参加
- ⑤競技会におけるアウトリーチ

III 選手派遣事業

派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金など公的資金を活用することから、評価の義務が問われる。各派遣の目標を実現するための計画・準備等から始まり、東京オリンピックに向けた競技力向上のために強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、水泳界の英知を結集して総力戦で臨む。

1. JOC 事業

(1) 第29回ユニバーシアード競技大会

- | | | |
|-----------|-------------|----------------|
| ① 期間・場所 | 8月19日～8月30日 | チャイニーズ・タイペイ・台北 |
| ② 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 8月20日～27日 | |
| (b) 飛込 | 8月20日～27日 | |
| (c) 水球 | 8月18日～30日 | |

(d) OWS 8月20日～27日

2. 特別事業

(1) 第17回世界水泳選手権大会

① 期間・場所 7月14日～30日 ハンガリー・ブダペスト

② 競技種目・日程

(a) 競泳 7月23日～30日
(b) 飛込 7月14日～23日
(c) 水球 7月16日～29日
(d) シンクロ 7月14日～22日
(e) OWS 7月15日～22日

IV 選手強化事業

自国開催である東京オリンピックで強化5部門が評価される。この4年間の強化は、今後のオリンピック強化の大きな基盤となる。1年毎に明確な目標を掲げ、東京オリンピックでは競泳は金メダルを含む過去最多メダル獲得、シンクロは銅メダル以上、飛込・水球・OWS はメダル獲得及び上位入賞を目指す。そのために月1回の特別強化本部会議を実施して5部門の進捗状況を把握し、年毎にスパイラルアップしながら目標達成に邁進する。

1. 競泳強化事業

リオデジャネイロ・オリンピックでは、萩野公介・金藤理絵両選手の金メダルをはじめ7つのメダル獲得、21種目の入賞を果たした。ロンドンオリンピックでは獲得できなかった金メダルを獲得したことは大きな成果であったが、メダル個数の点では取りこぼしもあった。その後開催されたジュニアパンパシフィック選手権、アジア選手権、世界短水路選手権では、ベテラン勢の確実なメダル獲得とともに次世代選手がメダル獲得するなど、新旧バランスよく戦績を収めることができ、今後に向けた新たなスタートが順調に切れたと言えよう。

上記を踏まえて、目標として掲げている東京オリンピックに向けた「58種目フルエントリー」、「29種目以上決勝進出」、「複数の金メダル及び2桁のメダル獲得(自由形種目を含む)」を残り3年半の強化の中でいかに担っていくかが、東京オリンピックでの成功(好成績)に直結する。1つ1つの大会に課題を設定して、その現状に即した効果的な強化策を策定していく。

昨年に引き続き、各国際大会に向けた強化合宿に加え、4月の日本選手権終了後から、ゴールデンウィーク期間、ジャパンオープン前と、計3回の世界選手権・ユニバーシアード代表合宿を行なう。継続して下期に実施しているインターナショナル合宿(年2回)はJISSで行ない、リレーや弱点種目に特化した合宿も計画する。また、下期は大会強化を継続しながらも、基礎となる体力・技術力の向上を図りつつ遠征に派遣していく。

ジュニア強化(高校生及び中学生)に関しては、8月世界ジュニア選手権、9月にアジアエージ選手権大会に代表を選考し派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続き

シンガポールに派遣し強化する。また、国内強化は中央と地方で行ない、第38回ナショナル強化合宿(中央:12月12日～20日)とジュニアブロック合宿(10地域)、エリート小学生合宿は年2回(春・秋)継続して合宿強化を実施する。昨年度から行なっているジュニア SS 育成合宿も継続して実施する。

(1) 国際競技会

① ヨーロッパグランプリ大会	6月	ヨーロッパ
② 世界選手権大会	8月	ハンガリー・ブダペスト
③ ユニバーシアード大会	8月	台湾・台北
④ 世界ジュニア選手権大会	8月	アメリカ・インディアナポリス
⑤ ワールドカップ大会	8月～11月	ヨーロッパ・中東・アジア
⑥ アジアエージ選手権大会	9月	ウズベキスタン・タシケント
⑦ 選抜遠征	2月	オーストラリア
⑧ ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

(2) 強化トレーニング合宿

① 海外合宿(フラッグスタッフ・シェラネバダ)		
② 世界水泳・ユニバーシアード代表合宿	4月・5月	JISS
③ 世界水泳高地合宿	6月～7月	フラッグスタッフ/シェラネバダ
④ 世界水泳平地合宿	7月	フランス・カネ
⑤ 世界水泳調整合宿	7月	ハンガリー
⑥ ユニバーシアード合宿	8月	JISS
⑦ 世界ジュニア調整合宿	8月	未定
⑧ エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
⑨ ジュニア SS 育成合宿	各月	JISS 等
⑩ 弱点強化合宿/インターD 合宿	12月	未定
⑪ ナショナル合宿	12月	鈴鹿・富士等
⑫ インターナショナル合宿	12月・2月	JISS
⑬ 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県

(3) コーチ派遣・招聘

① ASCA 会議	9月	アメリカ
-----------	----	------

(4) 企画・研修及び講習会

① 全国強化コーチ会議	10月	東京
② ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
③ ブロック合宿担当者会議	10月	東京
④ 強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

(5) 次世代ターゲットスポーツの育成・強化委託事業

2. 飛込強化事業

リオデジャネイロ・オリンピックには選手3名が出場し、女子は高飛込で8位入賞を果たしたが、男子は目標からほど遠く大変残念な結果に終わった。東京オリンピックでメダルを獲得するには、2017年度以降、毎年の戦績を向上させ、国際主要大会において上位入賞を果たしていく必要がある。そのため、この2年間の実績が非常に重要となる。本年は世界選手権大会・ユニバーシアード大会が開催されるが、世界選手権大会では複

数種目において確実に決勝に進出しての8位入賞を、またユニバーシアード大会では、世界選手権出場者の参加も予想されるがメダル獲得を目指す。上記大会の代表選手は、FINA グランプリ大会で最終調整を行ない本戦に臨む（世界選手権代表はカナダ・プエルトリコ GP、ユニバーシアード代表はイタリア GP）。

東京オリンピックに向けては、①シンクロ種目を見据えた個の強化（高難易度種目の習得と安定性）、②積極的なシンクロペアリングによるチームの構築と継続的な強化、③若手選手の育成、の重要目標3点を本年も継続する。特に③においては「ターゲット選手強化指定事業」を立ち上げ、シニア・U18の基準を設定し、ターゲット選手を指定し、海外・国内強化活動を推進しながら強化の焦点化・集中化を図り、東京オリンピックでのメダル獲得を目標に国際競技力の向上を目指す。

ジュニア強化では、FINA 及びアジア水連が主催する国際大会（アジアエージ選手権大会）への派遣を積極的に進める。世界各地のジュニア大会や合同合宿等の参加を重ねつつ、シニアの競技会（FINA グランプリ大会）にも出場させて強化を図る。エリート小学生合宿及びエリートアカデミー制度は、JISS・NTC が体操競技など他の競技種目の強化拠点でもある利点を最大限生かし、タレント性豊かなエリート小学生及びエリートアカデミー生4名の強化を集中的に図る。また、昨年より開始した海外強化合宿も継続し、飛込競技の特性を踏まえた、技術力・精神力ともに勝負強い選手の育成を目指す。

(1) 国際競技会

① 世界選手権大会	7月14日～23日	ハンガリー・ブダペスト
② FINA-GP(カナダ)	4月6日～9日	カナダ・ガティノー
③ International Youth Diving Meet	4月20日～23日	ドイツ・ドレスデン
④ FINA-GP(プエルトリコ)	5月4日～7日	プエルトリコ・サンファン
⑤ FINA-GP(イタリア)	7月5日～7日	イタリア・ボルザノ
⑥ ユニバーシアード大会	8月20日～27日	台湾・台北
⑦ アジアエージ選手権大会	9月9日～16日	ウズベキスタン・タシケント
⑧ FINA-GP(オーストラリア)	11月9日～12日	豪州・ゴールドコースト

(2) 強化トレーニング

① ナショナル海外合宿助成事業		
② ナショナル強化国内合宿		
(ア) 世界選手権強化合宿	6月1日～5日	東京辰巳 + JISS
(イ) ユニバーシアード大会強化合宿	6月1日～5日	東京辰巳 + JISS
(ウ) FINA-GP 強化合宿	10月6日～9日	東京辰巳 + JISS
(エ) ナショナル・ナショナルB強化合宿	未定	東京辰巳 + JISS
③ ジュニア強化		
(ア) アジアエージ選手権事前強化合宿	9月	東京辰巳 + JISS
(イ) ジュニア強化合宿	12月23日～26日	三重・鈴鹿
(ウ) エリート小学生強化	10月6日～9日	東京辰巳 + JISS
④ ターゲット選手強化活動		
(ア) 板橋美波 海外合宿	12月～1月	中国・上海
(イ) 金戸 凜 国内合宿	2月	東京辰巳 + JISS

(3) エリートアカデミー活動

通年 JISS + 辰巳・千葉国際・青木町公園

- ① ナショナルトレーニングセンターの施設を十分活用し、他競技を含めた専任のトップレベルの指導者による長期的・集中的な競技スキルの指導プログラム

- ② ライフスキル、コミュニケーションスキルを身につけさせ、社会性、人間性を向上させるための知的能力開発プログラム
- ③ 共同生活を通じて必要な社会規範を意識させ、日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養うためのプログラム
- ④ 国際人として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム
- ⑤ 基本的な学力の定着を図るための学習(補習)プログラム
- ⑥ 国際大会派遣による競技力向上並びに海外選手との交流を図り国際的資質を高める。
海外強化合宿 10月アメリカ・USC
International Youth Diving Meet 参加

(4) 企画・研修会及び講習会

- | | | |
|---------------------|----------|------------|
| ① 強化コーチ会議 | 10月大阪・他 | 数回 |
| ② ブロック代表者会議 | 12月2日・3日 | 東京 NTC 会議室 |
| ③ 公認審判員研修会 | | |
| (ア) A級・B級公認審判員中央研修会 | 5月・6月・7月 | 他数回 |
| (イ) C級公認審判員研修会 | 中央研修会後 | 随時 |

3. 水球強化事業

2017年度男女日本代表は、昨年のアジア選手権において男子優勝、女子準優勝の結果により、アジア大陸代表として世界選手権大会に出場する。大会ではチャレンジャーとして東京オリンピックに繋がるよう、男女ともに目標を予選リーグの突破に置いている。また、代表強化策の主軸として継続的に参加をしている「FINA 水球ワールドリーグ」では、男女ともにファイナル進出を目指す。代表チームの編成については、リオデジャネイロ・オリンピックを終え、アジア選手権から戦略的に世代交代を進めている。本年度は東京オリンピックを見据えた重要なスタート年度、ユニバーシアード大会には、大学生を中心とした男女代表を編成して上位進出を目指す。また、この大会に向けて日本代表候補選手層の充実を目的に、大学生の強化を進め、選手間の競争意識を促進させる。

ジュニアの育成・強化事業では、男女 U20代表チームを世界ジュニア選手権、男女 U17代表チームをアジアエージ選手権大会に派遣する。この育成世代の国際大会においても、日本代表チームの戦術を使って一貫指導体制を進める。

代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業と、水球強豪国との合同合宿及び強化試合については、強化協定書の締結を含め、内容を見直しながら今年度も引き続き実施する。

代表選手選考方法については、国際大会と国内主要競技会を選手選考の場とする。この方法は、広く選手間の競争意識が生まれ、国内競技会のレベルアップにも繋がっていることから、2017年度も引き続き継続する。

(1) チーム派遣

- | | | |
|-------------------------------|-----------|-------------|
| ① 男子ワールドリーグ インターコンチネンタルトーナメント | 4月25日～30日 | 豪州・ゴールドコースト |
| ② 女子ワールドリーグ インターコンチネンタルトーナメント | 月 日～ 日 | 未定 |
| ③ 男子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 6月20日～25日 | 未定 |
| ④ 女子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 6月6日～11日 | 中国・上海 |
| ⑤ 男女世界選手権大会 | 7月16日～29日 | ハンガリー・ブダペスト |
| ⑥ ユニバーシアード大会 | 8月19日～30日 | 台湾・台北 |

⑦	男子世界ジュニア選手権大会	8月5日～13日	セルビア・ベオグラード
⑧	女子世界ジュニア選手権大会	9月3日～11日	ギリシャ・ホロス
⑨	男女アジアエージ選手権大会	9月9日～16日	ウズベキスタン・タシケント
(2) 国際大会派遣選手選考委員会			
①	世界選手権大会	5月30日	2016・17年度選考対象試合・他
②	ワールドリーグ・スーパーファイナル	3月14日・5月	2016・17年度選考対象試合・他
③	ユニバーシアード大会	6月6日	2016・17年度選考対象試合・他
④	男女世界ジュニア選手権大会	6月・7月	2016・17年度選考対象試合・他
⑤	男女アジアエージ選手権大会	8月	2016・17年度選考対象試合・他
(3) 強化トレーニング合宿			
①	海外拠点強化合宿(男女)	6月・7月・月	豪州・ハンガリー他
②	国際競技会国内事前合宿	4月・6月・8月・10月	JISS 他
③	ナショナルチーム強化合宿(男女)	4月・9月・11月・3月	JISS 他
④	男女ジュニア・ユース研修(男女)	12月27-30日	岡山・倉敷
⑤	海外選手派遣事業		ヨーロッパ 通年
(4) チーム招聘・コーチ招聘			
①	男子セルビア・豪州代表合同合宿	7月・8月	JISS
②	女子豪州合同合宿	7月	JISS
(5) 企画・研修及び講習会			
①	男女強化コーチ会議	6月・8月・9月・10月・3月	
②	全国コーチ会議・研修会	10月	
③	国際情報収集	通年	
④	日本代表ゲーム分析・評価事業	通年	
⑤	代表候補選手研修会	4月・11月	
⑥	コーチ研修会	10月	
⑦	審判指導者合同研修会(国際トップ審判員の招聘)	10月	
⑧	ジュニア指導者研修会	12月	

4. シンクロ強化事業

2017年度は、世界選手権大会(7月、ブダペスト)を最重要試合と位置づけ、全種目メダル獲得を目標とする。2016年10月に、アジア選手権大会(2016年11月、東京)と世界選手権大会の代表選手を選考し、代表強化をスタートさせた。代表選考会においては、メダルを目指し戦うためにはチーム全体のスケールの大きさ、ダイナミックさが不可欠であることから、これまで同様に身長減点を採用、大型で技術力の高い選手を選考する選考方針を踏襲した。東京オリンピックを見据えた強化の基本戦略は、①チーム大型化、②身体づくり(切れのあるシャープな動きができる身体づくり、可動域向上、脚質強化)、③技術強化(高さ、シャープさ、正確さ)、④立ち泳ぎ強化、⑤リフト強化(土台&トップ)とする。

さらに、東京オリンピック及びそれ以降を見据え、B代表、ジュニア(16～18歳)代表、13～15歳代表の派遣を継続する。B代表はスイスオープン(6月、チューリヒ)、ジ

ユニア代表及び13～15歳代表はアジアエージ選手権大会（9月、タシケント）に派遣し、全種目での表彰台を目標とする。また、平成26年秋より開始したジャンパー&セカンド育成プロジェクトを継続し、リフト強化を促進する。ユース年代（11～14歳）については、全国8ブロックより選抜された有望選手を対象にユース有望合宿を実施し、有望選手から大型選手を含むユースエリート強化選手を若干名選抜し、ユースエリート強化合宿並びに国際大会派遣を通して、次世代の中心戦力選手を着実に育てていく。また、柔軟性向上を目的とした小学生柔軟性合宿を新たに実施し、正しい方法での柔軟性トレーニングを指導し低年齢のうちに柔軟性を獲得させる。

2017年はFINAルール変更年であることから、ルール変更への即時対応を図り、全国への迅速かつ正確な情報伝達を行う。コーチキャンプ、ナショナル審判強化研修等を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。

(1) 国際競技会

① 世界選手権大会	7月	ハンガリー・ブダペスト
② スペインオープン	5月	スペイン
③ スイスオープン	6月	スイス・チューリッヒ
④ アジアエージ選手権大会	9月	ウズベキスタン・タシケント
⑤ クリスマスプライズプラハ	12月	チェコ・プラハ
⑥ フレンチオープン	3月	フランス・パリ
⑦ ジャーマンオープン	3月	ドイツ・ボン

(2) 強化合宿

① 世界選手権代表合宿	4月～7月	JISS・大阪
② 世界選手権ミックスデュエット代表合宿	4月～7月	JISS・長野
③ 世界選手権代表海外合宿	6月	グアム
④ スイスオープン代表合宿	5月～6月	JISS
⑤ アジアエージ選手権代表合宿	5月～9月	JISS
⑥ 東京五輪対策特別強化選手合宿	1月～2月	JISS
⑦ ジャンパー&セカンド育成プロジェクト合宿	9月～3月	JISS・NTC
⑧ ジャンパー&セカンド育成海外合宿	12月	未定
⑨ 全国選抜シニア中央合宿	12月	JISS
⑩ 全国選抜ジュニア中央合宿	9月	JISS
⑪ ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑫ ユースエリート育成特別強化合宿	10月～12月	JISS
⑬ 小学生柔軟性合宿	9月	JISS・NTC
⑭ ミックスデュエット対策男子選手強化合宿	5月～6月	JISS
⑮ アジア大会&W杯2018代表合宿	9月～3月	JISS

(3) コーチ・役員 派遣・招聘

① 海外コーチ招聘	秋～冬	JISS
② FINA ワールドワイドセミナー役員派遣	秋～冬	未定
③ FINA ジャッジスクール審判員派遣	1月～3月	未定

(4) 企画・研修及び講習会

① 代表派遣選手選考会	10月～2月	JISS
② ルール改正特別研修会	2月	JISS・NTC
③ 全国強化担当者会議	2月	JISS・NTC
④ コーチ・ジャッジクリニック	10月	JISS・NTC
⑤ ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	9月	JISS・NTC
⑥ ブロック巡回指導ナショナルコーチ派遣	10月～3月	各ブロック
⑦ ナショナル審判強化研修	適宜	JISS
⑧ 審判研修会・レフリー派遣	年間	競技会開催地他
⑨ 競技者育成プログラムバッジテスト	年間	各加盟団体
⑩ ミックスデュエット対策男子選手講習会	5月～6月	JISS

5. オープンウォーター強化事業

リオデジャネイロ・オリンピックでは、女子12位、男子では目標としていた8位入賞を果たし、東京オリンピックに向けた展望が開ける成果となった。ここを新たなスタート地点とし、2020年、さらには2024年のオリンピックを見据えた強化プランを策定し、各年度の目標を確実に達成する強化体制を進める。

東京オリンピックの目標である①メダル獲得②フルエントリー（男女各2名出場）の達成に向け、ポイントとなるのは2019年世界選手権大会での男女各2名の五輪出場権の獲得（10km 競技10位以内で最大男女各2名に出場権付与）である。本年度開催の世界選手権大会は、その第一歩であり、選手の経験値向上のために男女各3名の出場を決めており入賞含む上位成績を目標としている。

オープンウォーター（OWS）特有の競り合いの中で、ペース変動への対応力、レース戦略の構築力、最後のロングスパートでの粘り強さ、ストレス耐性を養うためには、国際大会での経験をより多く積むことが必要となる。そのため、本年度はOWSワールドカップへの出場機会を増やし実践的な強化に努める。

また、昨年度からOWSが国体正式種目となったことで、各都道府県でのOWSへの認知度が急速に進み、OWS強化の普及に大きく貢献した。この機会をとらえ、さらなる選手層の拡大に努める。大学生、ジュニア層への普及が急務であり、現在のOWS強化指定選手を中心に、競泳中・長距離選手からの適材発掘によるOWS選手層の拡大を進める。また、競泳とOWSの連携を深め、OWS競技への挑戦機会を多く提供することで、双方にとって有益な強化体制を築き、選手強化と普及を図る。

(1) 国際競技会

① アジア OWS 選手権大会	5月	マレーシア
② ワールドカップ	6月	ポルトガル・セチュバル
③ 世界選手権大会	7月	ハンガリー・ブダペスト
④ ユニバーシアード大会	8月	台湾・台北
⑤ ワールドカップ	10月	中国・チュアン
⑥ ワールドカップ	10月	中国・香港
⑦ 全豪 OWS 選手権大会	2月	オーストラリア
⑧ ワールドカップ	2月	アルゼンチン
⑨ ワールドカップ	3月	UAE

(2) 強化合宿

① 世界選手権及びエバーシールド代表合宿	5月	静岡
② 強化指定 S・A サポート合宿	5月～6月	JISS
③ 世界選手権強化高地合宿	6月	アメリカまたはスペイン
④ 世界選手権直前合宿	6月	ポルトガル
⑤ 強化指定選手強化合宿	6月～9月	認定 OWS 大会開催各地
⑥ ジュニア強化指定選手合宿	8月	千葉・館山
⑦ 強化指定 A・B 選手強化合宿	9月	東京
⑧ 強化指定選手強化合宿	9月	東京
⑨ ナショナルチーム強化合宿	12月	愛媛・松山

(3) 企画・研修会及び講習会

① 2020対策 OWS 説明会	未定	東京・辰巳
② 強化コーチ会議	10月	JISS

6. 科学事業

関係諸委員会、JISS、JOC、JSC、加盟団体などとの連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。選手・コーチへのレース分析データと映像データ（水上）の提供について、より一層の効率化を図り、国内の主要競技会で実施する。データの利用促進に向けたデータベース化の検討、並びに活用事例の紹介（月刊水泳連載）を継続する。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力する。また、同学会が計画している第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018年9月17～21日、筑波大学にて開催予定）の準備活動に協力する。広報委員会と連携し、学会等における最新の科学的知見を月刊水泳等で広く周知することに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生やナショナル選手の合宿等で科学情報の収集やデータの分析・提供を行なう。また、飛込、水球、シンクロ、OWS の各委員会及び加盟団体が行なう科学サポートに協力する。

(1) 競泳のレース分析・撮影

- ① データの公開・利用の促進（データベース化の準備含む）
- ② 第93回日本選手権大会 競泳競技におけるレース分析
- ③ ジャパンオープン2017(50m)におけるレース分析
- ④ 第85回日本高等学校選手権水泳競技大会、第57回全国中学校水泳競技大会、第40回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会、第93回日本学生選手権水泳競技大会におけるレース分析（決勝レース）
- ⑤ FINA 競泳ワールドカップ東京2017及び第59回日本選手権大会競泳競技(25m)におけるレース撮影

(2) 教育・啓発活動

- ① 2017年度 日本水泳・水中運動学会年次大会への協力（於：NTC、JISS）
- ② 第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（2018年開催）の計画・準備活動への協力

- ③ 指導者資格付与制度への協力
- ④ 「水泳の日」イベントでの水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

(3) 競技力向上に関する科学サポートの推進

- ① 競泳エリート小学生研修合宿における科学サポート（春・秋）
- ② 競泳ナショナル強化合宿における科学サポート（鈴鹿・富士）
- ③ 水球、飛込、シンクロ、OWSの合宿等における科学サポート
- ④ 加盟団体実施の科学サポートへの協力

7. 医事事業

2016年度は、主要競技大会・強化合宿でのメディカルサポート活動を実施するとともにFINA medical congressでの発表など研究報告活動を行なった。2017年度は、関係諸委員会、JISS、JOCとの良好な連携を保ち、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究・調査・報告活動を行なう。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、アンチ・ドーピング活動、障害予防プログラムの考案と実践、JISSクリニック・リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的としたメディカルサポートミーティングを実施する。また、東京オリンピックでの活躍が期待されるジュニア世代へのメディカルサポート活動としてジュニア合宿へのメディカルスタッフの派遣によるメディカルチェック、障害予防対策、女性選手のサポート等を行なう。さらにこれらの活動を円滑に行うために各加盟団体の医事関連部門との連携を深める。教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等の協力を行なう。

(1) 競技大会における救護・支援活動

(2) 競技選手へのメディカルサポート活動

- ① 選手のコンディショニング及び障害・疾病の管理
- ② アンチ・ドーピング活動
- ③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防プログラムの実践
- ④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動及び調査研究活動
- ⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有及び連携強化

(3) 教育・啓発・研究活動

- ① FINA 医事委員会との協力
- ② 日本水泳ドクター会議・トレーナー会議への協力
- ③ 障害を予防するための研究・予防プログラムの開発・普及
- ④ 指導者養成講習会への講師派遣

V 普及事業

本連盟にとって強化と普及は二本柱の重要課題であり、2017年度も、指導者養成事業、マスターズ水泳を主とした生涯スポーツ事業、国体正式種目となった OWS 普及事業、日本泳法保存事業、月刊水泳等の機関誌発行事業、さらにホームページを活用した広報事業に取り組む。また、本年度より、スポーツ庁の国際貢献事業『SPORT FOR TOMORROW』、国際水泳連盟（FINA）の『Swimming For all - Swimming For Life』プログラムと連動した、水泳を通じた国際貢献事業を立ち上げる。なお、本年度が3回目となる『水泳の日』については、水泳愛好者や水泳ファンの拡大を目指すとともに、水難事故防止の側面から全国展開を推進する。

1. 指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、（公財）日本体育協会と連携協力し指導者養成事業を実施する。

また、（公財）日本体育協会が実施している指導者資格再登録及び公認スポーツ指導者管理システム「マイページ」の活用及び指導者制度改定に関して三委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

(1) 地域指導者養成事業

① スポーツ指導者に関する事業

(a) 指導員・上級指導員新規養成事業の推進

47加盟団体による指導員養成事業の実施

(b) 上級指導員養成（ブロック開催）の実施

(c) 水泳指導員・基礎水泳指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新 47加盟団体で実施

(d) 基礎水泳指導員に関する事業

(f) 基礎水泳指導員資格取得者の登録

(i) 養成に関わる督励・指導・助言

(h) アスリート基礎水泳指導員資格免除認定審査

(e) 免除適応校専門科目検定（北海道、東京、名古屋、大阪、協力加盟団体）

(f) マスター指導員中央研修会の実施

(g) 安全対策の普及徹底

(h) 全国地域指導者（普及）委員長会議の開催

(i) 各種依頼事業への協力

② 普及に関する活動支援事業

(a) 総合保障制度への加入推進

(b) 加盟団体各委員長会議・研修会の開催

(2) 競技力向上コーチ養成事業

① 資格審査（年2回）の実施

② コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録事業

③ コーチ研修会事業（コーチ11会場・上級コーチ2会場）

- ④ コーチ養成講習会事業の推進
- ⑤ 免除適応コース認定校の開拓

(3) 水泳教師養成事業

- ① 水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
 - (a) 適応コース講習検定会の実施（日本水泳連盟担当）
 - (b) 適応コース大学検定会の実施（日本水泳連盟担当）
 - (c) 適応コース認定校の新規開拓（日本水泳連盟担当）
- ② 新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会担当）
- ③ 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ④ スキルアップ講習会 in 東京の開催（日本水泳連盟担当）
- ⑤ スキルアップ講習会 in 愛知の開催（日本水泳連盟担当）
- ⑥ 水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑦ 水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）
- ⑧ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

2. 生涯スポーツ事業

マスターズ水泳事業は、(一社)日本マスターズ水泳協会及び(公財)日本体育協会と連携しながら、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進していく。

「水泳の日」事業は、初めての地方開催として、北信越ブロックの金沢プール（5月28日）にて開催する。実行委員会を中心として、石川県水泳協会、金沢市及び各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

(1) 日本スポーツマスターズ事業

- ① 「日本スポーツマスターズ2017水泳競技兵庫大会」の開催
9月9日～10日 兵庫県 尼崎スポーツの森
- ② (一社)日本マスターズ水泳協会及び(公財)日本体育協会と連携し、大会のさらなる発展を目指す。また、新設する第9部の個人種目及びリレー種目280歳の部の普及に努める。

(2) 「水泳の日」イベント開催事業

- ① 2017年5月28日 金沢プールにて、第3回「2017水泳の日 金沢」を開催する。また(公財)東京都水泳協会が主催開催する「水泳の日」(8月13日)との連携も密に行なう。
- ② イベントに関わる会議の企画・立案・運営
- ③ 各委員会及び関連団体との連携・連絡調整に取り組む

(3) 泳力検定事業

- ① 泳力検定者及び合格者の増加促進
- ② 特別泳力検定会（10会場以上）等の企画・立案・運営

- ③ 泳力検定優秀団体の表彰
- ④ 新設した6級及び7級検定者の普及

(4) 優秀登録団体表彰事業

- ① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

3. OWS 普及事業

- (1) OWS スイムクリニック、OWS 検定会の開催
- (2) OWS 審判員の養成（審判講習会の開催）
- (3) OWS 指導員の養成（指導員講習会の開催）
- (4) OWS 公認コーチ資格、上級コーチ資格養成講習会の開催（2018年度実施）
- (5) 認定 OWS 大会の拡大
- (6) OWS 国際審判員の養成（FINA OWS スクールの開催）
- (7) 春季公式 OWS 大会準備

4. 日本泳法保存事業

それぞれ年1回開催する日本泳法大会及び日本泳法研究会を通じ、現存13流派泳法の保存と普及を図る。日本泳法大会では競技及び資格審査を行うが、各流派泳者の演技評価が適正に行われることが選手のモチベーションアップに繋がり、また指導者を目指す人材育成に不可欠であることから、原則年2回審判研修会を実施する。資格審査は、中高年から日本泳法を始めたなど競技経験を持たない泳者には合格のハードルが高かったが、2014年度からは達成段階順に3資格（修水・和水・如水）を増やしたので、今後それらへの受験も勧める。また、資格審査委員のアドバイスを受けて泳法の完成度を自己評価する日本泳法研鑽会への参加資格を、従来の「游士保有者のみ」から「修水」及び「和水」保有者にまで拡大する。資格審査はこれまで大会時のみに行なってきたが、本年度は試行として、和歌山市においても4月に游士審査会を開催する。

- | | | |
|--|-----------|-------------------|
| (1) 日本泳法游士資格審査会 | 4月23日 | 和歌山県秋葉山公園県民水泳場 |
| (2) 第62回日本泳法大会 | 8月19日～20日 | 長野アクアウイング |
| ・ 泳法競技、同ジュニア、団体泳法競技、同シニアクラス、支重競技、横泳ぎ競泳 | | |
| ・ 游士、練士、教士、範士、修水、和水、如水の資格認定 | | |
| (3) 第66回日本泳法研究会 | 3月17日～18日 | 長崎市民総合プール |
| ・ 課題「小堀流」（3月17日の講義会場はホテルニュー長崎） | | |
| (4) 第10回日本泳法研鑽会 | 3月18日 | （上記日本泳法研究会終了後に実施） |

5. 機関誌発行事業

機関誌「月刊水泳」の使命である記録、成績の掲載に重点を置き、より速く、より詳しい内容とする。同時に、水泳ファンにも購読してもらえ「楽しい」誌面も掲載予定である。

6. 広報事業

(1) ホームページ

- ① 「より速く」を目指し、総務委員会、情報システム委員会と共同歩調を取り、タイムリーな情報提供を行うとともに、ページ更新の簡素化に取り組む。
- ② 過去の記録を含めた歴史・記録のアーカイブ・ページを立ち上げ、今年度より順次ア

ップする。

(2) 報道対応

7月の世界選手権大会、その代表選考会となる4月の日本選手権大会を中心に、競技委員会、総務委員会、事務局等と連携して、正確な告知、迅速な対応を図る。

7. 国際貢献事業

(1) 英語版水泳指導 DVD の制作

既存の水泳指導 DVD（日本語版）の英訳・制作（＝英語版の制作）。

(2) 要請に応じた水泳指導者の海外派遣

指導力と語学力を兼ねた水泳指導者の海外派遣（要請に応じて）。

(3) ASEAN 各国からの留学生向け水泳教室の開催

大学等と連携した ASEAN 各国からの留学生向け水泳教室の開催。

VI 組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

1. 総務関係事業

本連盟各種会議及び地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有及び意思疎通を図り、円滑な業務遂行を図る。本連盟を取り巻く社会環境の変化に即応した各種規程の新規策定及び改訂を遂行する。本連盟事務局の労務環境を管轄し、各種業務の効率化を目指す。

2. アスリート委員会事業

(1) FINA アスリート委員会への提言を目的とした意見集約

① アスリートの意見集約

(2) JOC アスリート委員会との連携・連動

- ① アスリートの意見集約
- ② オリンピック・ムーブメントの推進
- ③ アスリートの社会的地位向上に関する活動

(3) ジュニアアスリートへの啓発活動

- ① 各競技ジュニアオリンピックカップでのオリンピック・栄養士・トレーナー等による研修講演
- ② 啓発冊子の作成、配布（2年または4年に一度作成）
- ③ アンチ・ドーピング活動の推進（JADA、本連盟アンチ・ドーピング委員会との連携、協力）

(4) 水泳普及活動及び社会貢献活動

① 国民体育大会開催地における水泳普及活動（オリンピックによる講演、指導、

- 教室、他)
- ② 障がい者水泳の普及活動支援（オリンピックによる講演、指導、教室、他）
- ③ 必要に応じた社会貢献活動の立案、実践（オリンピックによる各種募金活動、慰問活動、他）

3. 特別委員会事業

- | | | |
|--|--------------|-------|
| (1) 財務委員会
免税募金事業の推進 | 財務委員長 | 堀 正美 |
| (2) 競技者資格審査委員会
競技者資格の審査 | 競技者資格審査委員長 | 坂元 要 |
| (3) 選手選考委員会
国際競技会派遣日本代表選手団の選考 | 選手選考委員長 | 青木 剛 |
| (4) 指導者養成委員会
指導者養成制度の推進と資格認定審査 | 指導者養成委員長 | 設楽 義信 |
| (5) 国際委員会（FINA・AASF）
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致企画 | 国際委員長 | 緒方 茂生 |
| (6) アンチ・ドーピング委員会
アンチ・ドーピング活動の計画と推進 | アンチ・ドーピング委員長 | 泉 正文 |
| (7) スポーツ環境委員会
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進 | スポーツ環境委員長 | 齊藤 由紀 |
| (8) 倫理委員会
倫理、社会規範意識の啓発と指導 | 倫理委員長 | 坂元 要 |

Ⅶ 組織運営及び財政基盤の確立

本連盟が2012年に策定した「ドリームプロジェクト～2020年に向けての構想」、及び現在策定中の「水泳ニッポン・中期計画2017-2024」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業内容の精査・充実を推進する。また、本連盟が創立100周年を迎える2024年に向けて、日本水泳界の統括団体として、これまでの100年を総括し、組織力の一層の強化に努める。

各種事業の遂行にあたっては、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会等の関連団体とも連携を図り実施する。

財政面においては、全体の収支バランスを考えながら、有効適切な事業の執行、予算管理を行う。

なお、本連盟の組織運営及び財政の確立に際しては、関係者が一丸となって、各種コンプライアンスの徹底を図る。